

宇宙を飛行する物体を日本では宇宙機と総称し、人工衛星・宇宙探査機・宇宙ステーションなどがある。

人工衛星の中には、気象衛星（ひまわり）、通信衛星（あやめ・さくら）、放送衛星（ゆり）、電離層観測衛星（つめ）、測地実験衛星（あじさい）、海洋観測衛星（もも）など、花の名前がつけられているものが多い。打ち上げられた人工衛星がロケットから分離し、予定された軌道に乗った時点で、「宇宙に花開け」との願いを込めて、花の名前がつけられてきたそう。

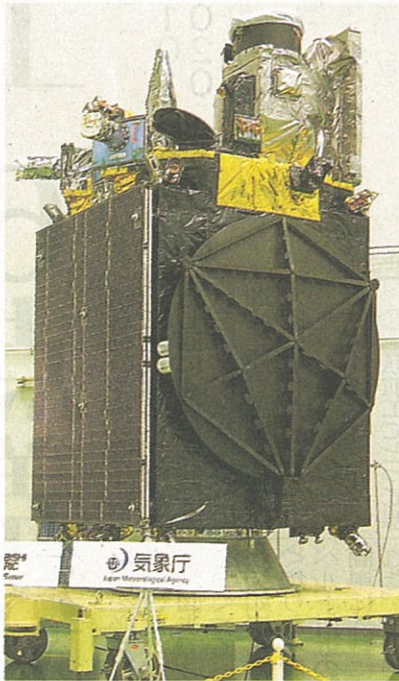
ひらがなの名前が多いのは、たくさんの人に親しんでもらえるように、という願いから。「ひまわり」は、赤道3万6千km以上空から24時間いつも地球を見つめていることと、天気に関する衛星であることから太陽をイメージし、1号の打ち上げが7月だったこともあって、夏にふさわしい名前として選ばれた。今や天気予報には欠かせないものの一つとなっている気象衛星ひまわりは、地球の自転と同じ1日に1回の周期で地球を回っている。このため、

40年で予報精度向上

今月のお題 気象衛星ひまわり

日本の気象衛星のあゆみ

種別	愛称	打ち上げ日
静止気象衛星	ひまわり	1977年 7月14日
静止気象衛星	ひまわり2号	1981年 8月11日
静止気象衛星	ひまわり3号	1984年 8月 3日
静止気象衛星	ひまわり4号	1989年 9月 6日
静止気象衛星	ひまわり5号	1995年 3月18日
運輸多目的衛星	打ち上げ失敗	1999年11月15日
運輸多目的衛星 新1号	ひまわり6号	2005年 2月26日
運輸多目的衛星 新2号	ひまわり7号	2006年 2月18日
静止気象衛星	ひまわり8号	2014年10月 7日
静止気象衛星	ひまわり9号	2016年予定



【写真上】「ひまわり8号」が撮影した地球の画像。画面中央上部に台風を捉えている＝2015年7月6日（気象庁提供）【同左】静止気象衛星ひまわり8号＝2014年9月、鹿児島県の種子島宇宙センター

地球上から見ると、いつも同じところに位置しているように見える。だから「静止衛星」と呼んでいる。

改良点は多々あるが、従来約30分を要していた雲の撮影

を、10分ごとに行いながら、日本付近については2分半ごとでも撮影可能となった。さらに、水平分解能も従来に比べて2倍に向上し、画像は格段に鮮明となった。

気象衛星もアメダスもどんどん改善されているが、これらのデータは実況である。このデータを、いかに予測・天気予報に生かすかが課題だ。昭和20年代の日本では、伊勢湾台風や洞爺丸台風などによって数千人規模の人的被害を被った。台風監視のため富士山山頂に気象レーダーを設置し、次いで気象衛星を打ち上げた。台風を発生時から監視し、進路予想の精度が格段に進歩した—とりたいのだが、進路予想にはまだまだ不満をいう人が多い。私もそのひとり。台風が九州に接近したころには、青森県への影響の度合いを早く知りたい。

現在の台風モデル（スーパーコンピューターの進路予想ソフト）では、決まったように台風進路は東（天気図では右の方へ）ずれることが多い。リングの収穫期である秋には、正確な進路予想を—と特に切実に思う次第である。気象庁には、さらなる改善を期待したい。

（工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住）

※第3週に掲載します。